

淡水に 24 時間浸漬したヒトエグサの生長

福島県水産資源研究所 資源増殖部

1 部門名

水産業—その他—ヒトエグサ

2 担当者名

舟木優斗

3 要旨

松川浦におけるヒトエグサ養殖では、要因が明らかになっていない葉体の短小化等の生育不良が報告されており、収穫量に大きな影響を及ぼしている(富山・涌井 2010)。生産者が懸念する要因として挙げているのが淡水の影響である。このため、本試験では淡水に 24 時間浸漬したヒトエグサの生長を調査し、処理区と対照区に差がなく、淡水の影響はないことを確認した。

- (1) ヒトエグサを淡水に浸漬すると、組織が膨潤して死亡するとされ(尾形 1956)、ノリ生産者からも生育不良の要因として淡水の影響が挙げられている。
- (2) 川口前と岩子の試験網の網糸を用いて、淡水(宇多川河川水)に 24 時間浸漬した処理区と海水に 24 時間浸漬した対照区を各 2 本設定した。
- (3) 浸漬直後のヒトエグサ組織を検鏡したところ、処理区は対照区と比較して組織が変形し、損傷していた(図 1)。
- (4) 浸漬後 3 カ月間の葉長推移では、対照区と比較して処理区のみ短小化(葉長が半分程度まで短くなる事象)等の生育不良などはみられなかった(図 2)。24 時間の淡水への浸漬により組織の損傷はみられるものの、その後の生長に影響はないことを確認した。

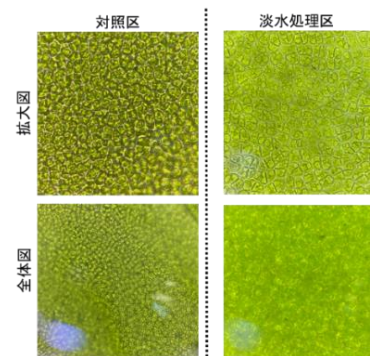


図 1 処理区と対照区のヒトエグサ組織

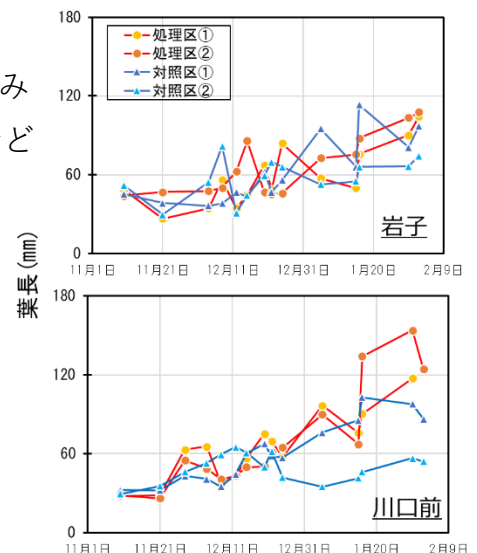


図 2 処理区と対照区のヒトエグサ

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～令和 7 年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究

5 主な参考文献・資料

- (1) 富山 毅, 涌井邦浩(2010). 沿岸漁業環境調査(ヒトエグサの芽 葉長の推移 落ち原因調査). 平成 22 年度事業概要報告書. 86-87.
- (2) 尾形英二(1956). ヒトエグサの傷害・生死の徴候について. Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries. 22(7). 400-403.